

ダムの風だより



国土交通省 大町ダム “大町ダム管理所”の近況をお知らせする広報誌です！

大町ダムの冬期の働きについて

大町ダムでは、秋～初冬にかけて水を貯める操作を行います。その理由は、水量が減少する冬期に備えるためです。下流では、青木湖の水を利用する施設があり、冬期間の流量が少ない時期になると、青木湖に貯まった水がどんどん減少してしまいます。青木湖の水が大幅に低下すると、水生生物等に悪影響を及ぼす可能性があります。大町ダムは地域からの要請を受け、秋にダムで貯めた水を1月10日より3月31日までの間、下流へ増放流し、流域の水環境を改善する役割も担っています。

大町ダム貯水池の様子



令和3年1月

1月5日: **893.7m**



令和3年3月

3月22日: **869.4m**



高瀬川の水量は、冬になると特に減少します。大町ダムでは1月10日から3月31日までの間、通常の放流量に**毎秒約1.6m³**多めに放流しました。約3ヶ月間でダム貯水位を**23.5m**下げ、**約1,450万m³**を放流しています。

大町ダムから放流を行う前は、青木湖の水位が一冬で約21mも下がった年もあったんだって。



令和2年度 高瀬川瀬切れ情報

高瀬川では、川の流れが途絶える「瀬切れ」が過去に何度か発生しています。高瀬川で瀬切れが起こりやすいところは、大町市の宮本橋から松川村の道の駅「安曇野松川」付近の約4km区間です。

令和2年度は8月以降、高温小雨となり、高瀬川で瀬切れが起きやすくなったことから昭和電工株の青島放流口より11月までの間、断続的に累計112万m³の追加放流が行われました。

大町ダム放流警報の運用が新しくなります

住民避難の警鐘を追加

大町ダムはダムから放流を行う際に、高瀬川上流から犀川合流点まで順番に30カ所で放流警報を鳴らし、河川内にいる人々に河川の水位が上昇することに対する注意を促しています。

加えて、**異常洪水時防災操作へ移行する際**には、避難勧告等の発令等を行う市町村とも連携しつつ、住民等に対して避難等の生命を守る行動を促すよう、住宅側にもサイレンやスピーカーを設置して鳴らします。

異常洪水時防災操作とは？

大町ダムは大雨により、下流に対して安全な量を上回る量の水が流れ込んだ時は、上回る量に応じて水を貯め、下流に流す量を減らします。しかし、**大町ダムがこれ以上の水を貯められないという状況になると、流れ込む水の量と同じ量を下流に放流**します。これを**異常洪水時防災操作**と言います。

イメージ図

通常は河川に向けた放送

これまでと同様

只今より、ダムからの放流を増やします。川の水が増えてきますので、川から出て下さい。

民家

異常洪水時防災操作時は

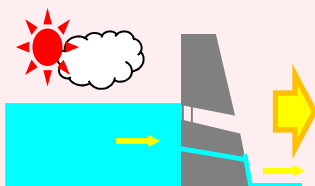
河川と住宅に向けて放送

これから

川の水が急激に増えてきます。川から離れ、市町村の避難情報に注意して下さい。

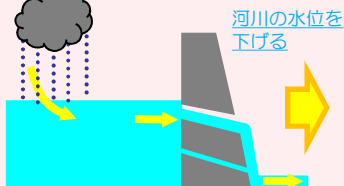
民家

通常時



ダムに流れてくる量と同じ量の水を放流し、水面を同じ高さに保ちます。

雨が降ったとき



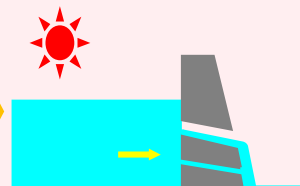
下流に対して安全な量までは流れ込んだ水と同量の水を流します。

大雨が降ったとき



大雨をダムに貯め、少ない水の量を放流することで、下流の急激な増水を防ぎます。

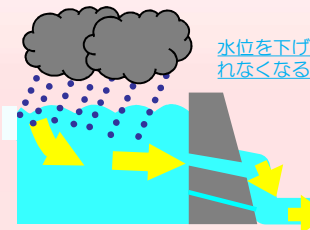
大雨のあと



大雨で貯まった水を放流し、貯留スペースを確保し、次の大雨に備えます。

これからは自治体からの避難勧告・避難指示に加え、**大町ダムからの放流により氾濫が生じる、又は氾濫が生じる恐れが高くなった場合に民家側にも放流警報が流れるようになります。多くの防災情報を元に速やかな避難行動を取られるようにしてください。**

大雨が続いてダムに水が貯められなくなったとき



ダムに水を貯めることが出来なくなった時に**異常洪水時防災操作**を行います。流れ込む水の量と同じ量を下流に放流します。

ダムに入ってくる水量 = 放流する水量

洪水から地域の人々の生命や財産を守り、ふるさとの大切な水資源を活かすことが大町ダムの使命です。ダムに関するご意見やご要望もお待ちしております。

国土交通省 北陸地方整備局 大町ダム管理所

〒398-0001 長野県大町市平字ナロヲ大クボ2112-71

TEL. 0261-22-4511(代) FAX. 0261-22-4512 <http://www.hrr.mlit.go.jp/omachi/>

